次節においては、学堂を考察する。

第四節　変法期の学堂

はじめに

すでに、変法運動における学会、報刊の役割については述べたので、本節においては、変法運動における学堂の役割について考察して行く。①

考察に当って、まず学堂の先駆となるものを明らかにし、ついで学堂の機能、学堂参加者の階層構成、学堂の年代的分布、学堂の地理的分布を明らかにし、最後に、変法運動における学堂の意義を明らかにして行きたい。

1、学堂の先駆

本項においては、学堂の先駆となるものについて考察し行く。学堂の先駆となるものについては、中国在来の書院と欧米風の清末洋式学校の２つが考えられるので、その２方面から考察して行く。

まず書院であるが、譚嗣同の「改併劉陽城郷各書院為致用学堂公啓」によれば、

今議して旧くからある六書院と新立の算学館を併せて１つとし改めて県城に学堂を建てる。②

と述べられており、書院を学堂に改変しようとしていることが知られる。

また、光緒24年５月22日の上諭によれば、大小の書院を各種の学堂に替えることが述べられている。すなわち、

各省府州県の現にある大小の書院を一律に改めて中学西学を兼習する学堂とし、学堂の等級については、省会の大書院は、高等部とし、郡城の書院は中等学とし、州県の書院は小学となし、皆京師大学章程を分けてそれに照して運営させる。③

とあり、書院を学堂に改め、各学堂に京師大学堂章程を与え、京師大学堂にならって各学堂の運営をさせようとしていることが知られる。

ついで、清末洋式学校について考察する。④清末洋式学校は、洋務期に主に成立するが、特に外国語学校について注目して行く。

まず第１に、外国語学校の成立であるが、1862（同治元）年に京師同文館が北京に設立された。これは外国文明を摂取するための外国語の教育機関であり、W・A・P・マーティンが館長となっている。このマーティンが後に京師大学堂の総教習となるのであり、ここに洋式学校の影響を受けて、学堂が設立されて行くことがわかる。

また、1863（同治２）年には、上海広方言館が、江南製造総局の附属学校として設立され、1864年（同治３）年には、広州方言館が設立され、外国語教育が行なわれた。ついで学堂が設立されて行くこととなる。

以上、学堂の先駆となる書院と洋式学校について考察した。

つぎに学堂の機能について考察して行く。

2、学堂の機能と性格

ここでは、学堂の機能と性格を明らかにして行くが、そのために、史料にもとずいて表を作成して置く。⑤

学堂名	章程	役員	関係学会・報刊	目的
湖北自強学堂		総教習、総弁		西学
天津中西学堂	○	総教習、総弁 教習、監董		西学・中学
遜業小学堂				西学・英文・数学
通芸学堂		教習		西学
算芸学堂				数学
広仁学堂				
湖南明達学堂				
八旗奉直学堂				
校経学堂				
大同学堂				
実力学堂				
湖南致用学堂	○	総教習、分教習 監院、弁事		中学・西学
紹興中西学堂		監董、司事		西学・中学
原生学堂				
東文学社（上海）				日本語
東文学社（広東）				日本語
江南儲才学堂	○	教授、助教、総弁		英・仏・独・日語 西学・中学
励学斎	○			実学
湖南時務学堂	○	総理、紳董 管理紳士、教習		西学・中学
瀏陽算学館	○	掌教、監院 経理、総理、分理		数学
横浜中国大同学校	○	値理、協理、書記 理財、核教		中学、西学、保国
中国女学堂	○	教習、提調、董事	不纏足会	西学・中学
湖南靖州算学学堂	○	掌教、監院		数学
浙江杭州蚕学館	○	総弁、教習、館正、館副 出洋学生監督、主任	農学報	蚕学
農学堂				農学
実学堂				実学
湖南課吏館	○	総理、提調、理事		農・工・土木・外交 法律
農工学堂				農学・工学
京師大学堂	○	教習、総弁 提調、総教習	北京強学会	西学・中学
広州時敏学堂	○	董事		西学・時事

以上の表から、学堂の機能と性格のあらましがわかる。まず、学堂には、章程があり、その章程により、性格、目的が知られるが、章程、又はそれに類したものがある学堂は、30学堂中13である。

ついで役員としては、教習、監董、総教習、分教習、監院、館正、館副、弁事、教授、助教、出洋学生監督、出洋学生、主任、総弁、総理、協理、書記、理財、核教、提調、司事、分理、値理、理事、董事、紳董、管堂紳士、掌教、経理等が用いられていることがわかる。これらは、管理者、教員、事務員の3つに大分できるのであろう。

関係学会、報刊ではっきりしているのは、農学報、北京強学会、不纏足会だけであるがその他にもあると考えられる。

学堂の目的としては、変法を志すものが多く、西学、西学中学、中学西学、実学に分けられるが、西学的な学堂には、湖北自強学堂、遜業小学堂、算芸学堂、通芸学堂、瀏陽算学館、南洋公学、浙江杭州蚕学館、湖南靖州算学学堂、農学堂、農工学堂、広州時敏学堂の11がある。

西学的・中学的な学堂には、天津中西学堂、紹興中西学堂、江南儲才学堂、湖南時務学堂、中国女学堂、京師大学堂の6がある。

中学、西学的学堂には、湖南致用学堂、横浜中国大同学校の2がある。

中学的な学堂としては、校経学堂がある。

実学的なものとしては、励学斎、実学堂、湖南課吏館の3がある。

以上、学堂の機能と性格について考察したが、次項においては、学堂参加者の階層構成について明らかにして行く。

3、学堂参加者の階層構成

学堂参加者の階層構成を明らかにするために、参加者表をまず作成して行く。

学堂名	学堂中の役割	氏名	出身	官職（それに代わるもの）
湖北自強学堂		張之洞	直隷	湖広総督、署両江総督、大学士
天津中西学堂		盛宣懐	江蘇	大理寺少卿
〃		伍廷芳	広東	候選道
〃		蔡紹其		候補知県
〃		丁家立		
通芸学堂		張元済	浙江	刑部主事
〃		厳復	福建	北洋水師学堂総教習
〃		陳昭常		
〃		張蔭棠		
〃		藻翔		
〃		曾習経		

〃		周汝經			
〃		夏楷復			
時務学堂	申請者	王先謙	湖南	前国子監祭酒	
〃	〃	張租同	〃	候選郎中	
〃	賛成者	譚嗣同	〃	候補知府	
〃	〃	黄遵憲	広東	湖南按察使	
〃	〃	江標	江蘇	湖南学政	
〃	〃	鄒代鈞	湖南	候選知県	
〃	〃	陳三立	江西	吏部主事	
〃	提調	熊希齢	湖南	翰林院庶吉士	
〃	中学総教習	梁啓超	広東	挙人	
〃	中学分教習	韓文挙	〃	監生	
〃	〃	葉覚邁	〃		
〃	〃	欧榘甲	〃	附生	
〃	〃	唐才常	湖南	抜貢生	
〃	西文総教習	李維格	江蘇	監生	
〃	算学教習	許奎垣			
〃	学生	李炳寰	湖南	学生	
〃	〃	林圭	〃	〃	
〃	〃	蔡鍔	〃	〃	
〃	〃	蔡鐘浩	〃	〃	
〃	〃	田邦璿	〃	〃	
〃	〃	秦力山	〃	〃	
〃	〃	范源廉	〃	〃	
〃	〃	唐才中	〃	〃	
横浜中国大同学堂		梁啓超	広東	挙人	
〃		徐勤	〃	生員	
上海女学堂	学堂設立者	経元善	浙江	知府（電報局長）	
〃		施則敬	〃	道員	
〃		厳信厚	〃	〃	
〃		鄭観応	広東	〃	
〃		陳済清		提督	
〃		汪康年	浙江	進士	
〃		康広仁	広東	生員	
〃		康有為	広東	工部主事	
〃		張謇	江蘇	翰林院修撰	
〃		曽広鈞	湖南	翰林院編修	
〃		康同璧	広東	康有為の娘	

〃	西文教習	Mrs.Richard Allen	英国	T.Richard夫人
〃	〃			
京師大学堂	管理大臣	孫家鼐	安徽	吏部尚書、大学士師傅
〃	総教習	W・A・P・マーティン	米国	宣教師
〃	訳書局弁理	梁啓超	広東	挙人
〃	総弁	張元済	浙江	刑部主事
〃	提調	黄紹箕	浙江	翰林院侍講
〃		朱租謀		翰林院編修
〃		余誠格		翰林院編修
〃		駱成驤		翰林院修撰
〃		李家駒		翰林院編修
〃	支応提調	杜国盛		戸部主事
〃	蔵書楼提調	李昭煒		詹事府在春坊在子
〃	儀器院提調	中周暻		工部郎
〃	管理雑務提調	王宗基		戸部主事
〃	〃	楊士燮		工部員外郎
時敏学堂	董事	梁肇敏		
〃	〃	鄧家仁		
〃	〃	譚頤年		
〃	〃	陳兆煌		
〃	〃	陳芝冒		
〃	〃	鄧家讓		
〃	〃	陳国照		
〃	〃	鄧純冒		

以上の表からわかることは、まず、8の学堂の参加者名が判明していることである。

学堂の中の役割であるが、申請者、賛成者、提調、中学総教習、中学分教習、西文総教習、算学教習、学生、学堂設立者，西文教習、管理大臣、総教習、弁理、総弁、提調、蔵書楼提調、支応提調、儀器院提調、管理雑務提調、董事の名が見える。

参加者で名の判明しているのは72人である。その派別を見れば、張之洞等の右派の仮維新系、康有為、梁啓超等の中間派、譚嗣同、唐才常等の左派が含まれている。

その出身地を表示すれば次の通りである。

順位	省名	人数	順位	省名	人数
1	湖南	17	6	直隷	1
2	広東	12	6	福建	1
3	浙江	7	6	安徽	1
4	江蘇	4	6	英国	1
5	江西	2	6	米国	1

それによれば、湖南、広東、江蘇にかたよりがあり、学会参加者、報刊参加者と相関関係をもっている。

最後に参加者の階層構成を表示すれば、次の通りである。

官職(又はそれに代る資格等)	品秩	人数	官職(又はそれに代る資格等)	品秩	人数
大学士・尚書	正一	1	主事	正六	6
大学士・総督	正一	1	翰林院修撰	従六	2
提督	従一	1	学政	正七品以上	1
按察使	正三	1	知県	正七	2
大理寺少卿	正四	1	翰林院編修	正七	4
道員	正四	4	翰林院庶吉士		1
国子監祭酒	従四	1	進士		1
翰林院侍講	従四	1	挙人		1
詹事府左春坊在庶士	正五	1	生員		6
部郎	正五	3	学生		9
知府	従五	2	宣教師		1

以上からわかることは、学生、主事、生員、道員、翰林院編修にかたよりが見られ、大学士（正一品）を最高にして未入流の下級官僚や学生の参加が見られたと云うことである。

次項においては学堂の年代的分布を考察して行く。

4、学堂の年代的分布

学堂の年代的分布を明らかにするためには、まず学堂の年代的設立表を作成し、考察して行く。

年代	月	学堂				
光緒19		湖北自強学堂				
光緒21		天津中西学堂				
光緒22		通芸学堂				
光緒22～23		孫業小学堂	算芸学堂	広仁学堂	明達学堂	
		八旗奉直学堂	校経学堂	大同学堂	実力学堂	湖南致用学堂
		紹興中西学堂	厚生学社	東文学社(広東)		
光緒23	6	江南儲才学堂				
	7	励学斎				
	8	湖南時務学堂	南洋公学			
	9	瀏陽算学館				
	11	中国大同学校	中国女学堂			
光緒24	1	東文学社(上海)				
	2～5	湖南靖州算学学堂	浙江杭州蚕学館	農学堂		
		実学堂	湖南課吏館	農工学堂		
	5	京師大学堂	広州時敏学堂			

以上の表より見れば、光緒19年（1893年）には、西学的な学堂である湖北自強学堂が設立されている。この学堂は、後に四国学堂と改称されている。

光緒21年（1985年）には、西学、中学的な学堂である天津中西学堂が設立されている。

光緒22年（1896年）には、西学的な通芸学堂が設立されている。

光緒22年から23年（1896－97年）にかけては、西学的な学堂としては、算芸学堂、東文学社（広東）が設立され、西学、中学的な学堂としては、紹興中西学堂が、中学的な学堂としては校経学堂が設立されている。

中学、西学的な学堂としては、湖南致用学堂が設立されている。その他内容の不明な学堂としては、孫業小学堂、広仁学堂、明達学堂、八旗奉直学堂、大同学堂、実力学堂、厚生学社、が設立されており、合計12設立されている。

光緒23年には西学的な学堂としては、瀏陽算学館、南洋公学が、西学、中学的学堂としては、江南儲才学堂、湖南時務学堂が設立されている。

中学、西学的な学堂としては、日本横浜中国大同学校が、実学的な学堂としては励学斎が設立され

ており、合計７が設立されている。

光緒24年には、西学的な学堂としては、東文学社（上海）、湖南靖州算学学堂、浙江杭州蚕学館、農学堂、農工学堂、広州時敏学堂が設立されている。

西学、中学的学堂としては、京師大学堂、実学的な学堂としては、実学堂、湖南課吏館が設立されており、合計９である。

総じて、言えることは、学堂の設立は、光緒22年から24年の変法実施以前に多く成立しており、変法実施のための人材養成に一定の役割を果たしてと言えるであろう。

次項においては、学堂の地理的分布について考察する。

5、学堂の地理的分布

本項においては、学堂の地理的分布について考察するが、まず、学堂設立地域表を作成して置く。

年代＼地域	直隷	陝西	江蘇（上海）	湖北	湖南	浙江	広東	広西	澳門	新加波	横浜
光緒19	天津中西学堂			湖北自強学堂							
光緒21	八旗奉直学堂										
光緒22	通芸学堂										
光緒22〜23					算芸学堂		孫業小学堂	広仁学堂	大同学堂	実力学堂	
					明達学堂	紹興中西学堂	東文学社		厚生学社		
					校経学堂						
光緒23		励学斎	江南儲才学堂		湖南時務学堂						
			南洋公学		瀏陽算学館						
			中国女学堂		致用学堂						中国大同学校
光緒24	京師大学堂		東文学社	農学堂	靖州算学学堂	浙江杭州蚕学館	広州時敏学堂				
				農工学堂	実学堂						
					湖南課吏館						
計	4	1	4	3	9	2	3	1	2	1	1

以下、表から考察されることを明らかにして行く。まず直隷に設立された学堂は、4あり、光緒19年（1893年）には、西学、中学的な学堂である天津中西学堂が、光緒21年（1895年）には八旗奉直学堂が、光緒22年（1896年）には、西学的な通芸学堂が、光緒24年には西学、中学的学堂である京師大

学学堂が設立されている。

陝西に設立された学堂は、光緒23年（1897年）に設立された励学斎であり、実学的な学堂である。

江蘇に設立された学堂は4あり、光緒23年には、西学的な学堂である南洋公学、西学、中学的な江南儲才学堂、中国女学堂が設立されている。光緒24年には、東文学社が設立されている。

湖北に設立された学堂は3あり、いずれも西学的な学堂であり、光緒19年には、湖北自強学堂が、光緒24年には、農学堂、農工学堂が設立されている。

湖南には学堂が一番多く設立されており、9ある。光緒22年から24年に設立された学堂は、西学的な学堂である算芸学堂、中学的な学堂である校経学堂、内容が不明である明達学堂である。

光緒23年には、西学、中学的な学堂である湖南時務学堂、西学的な学堂である瀏陽算学館、中学、西学的な学堂である致用学堂が設立されている。光緒24年には、西学的な靖州算学学堂と実学的な実学堂、湖南課吏館が設立されている。

浙江に設立された学堂は2あり、光緒22年から23年にかけては、西学、中学的な学堂である紹興中西学堂、光緒24年には、西学的な学堂である浙江杭州蚕学館が設立されている。

広東に設立された学堂は3あり、光緒22年から23年にかけては、西学的な遜業小学堂と東文学社が設立され、光緒24年には、西学的な広州時敏学堂が設立された。

広西に設立された学堂は、光緒22年から23年にかけて設立された広仁学堂である。

澳門に設立された学堂は2あり、光緒22年から24年にかけて設立された大同学堂と厚生学社である。

新加波に設立された学堂は、光緒22年から23年にかけて設立された実力学堂の1つである。

横浜に設立された学堂は、中学、西学的な学堂、中国大同学校が1つである。

以上、学堂の地理的分布について考察したが、学堂がもっとも多く設立されたのは、湖南であり、ついで上海であることがわかる。

これらから判断する限り、変法運動が上着化した湖南においては、変法派の人材を養成すべき必然性から学堂も多く設立されたと考えられる。

以下次項においては、変法運動における学堂の意義について考える。

6、変法運動と学堂

変法運動における学堂の意義は、変法派の人材の養成にあったと思われるが、人材が輩出する以前に多くの学堂が弾圧されることになった。

しかし、その中でも特に人材を輩出したのが、湖南の時務学堂であった。彼等は、1900年の自立軍起義に参加し、その後革命派に移る者も多く出た。

また、変法期には学生が卒業しなかったが、変法期に設立され、その後卒業生を出したのが京師大学堂であった。

変法運動が戊戌政変によって弾圧された中にあって、京師大学堂だけは、良く残りその後の中国に大きな影響を与えている。

以上、総じて云えることは、変法運動における学堂の意義は、人材の養成にあったということであろう。

おわりに

以上、各項にわたって考察して来たが、最後にそれらをまとめて置く。

学堂の先駆となるものは、書院と清末の洋式学校であった。ついで学堂の機能と性格を見ると、その機能や性格を表わす章程があり、各学堂には役員が置かれ、学堂に関係した学会、報刊があり、各学堂はその性格から、西学的学堂に分けられる。中でも、西学的な学堂、西学、中学的な学堂にかたよりが見られる。

学堂参加者には、変法右派、中間派、左派の人達が含まれており、その出身地は、湖南、広東、江蘇にかたよりが見られ、その階層構成を見れば、按察使（正三品）を最高にして未入流の下級官僚、学生にかたよりが見られ、学堂の意義は、人材の育成にあったと考えられる。

第五節　まとめ

第一章では、変法期の学会、報刊、学堂について概観した。

第一節では、学会の設立について考察した。康有為等による変法期の学会は、政治的な性格を有し、変法の鼓吹を意図しており、中国在来の書院と西欧学会の性格の接ぎ木により成立した。

学会には、その目的を明らかにする章程、運営に当る役員があり、附属施設として図書（館）、報（館）、学堂をもつか、もつことを意図した。

これらの学会は、その性格により、政治的、啓蒙的、西学的、中学・西学的な学会に分類される。

学会参加者は、導員、（正４品）を最高にして中下級の官僚が多く、多くの学会に参加した者としては、梁啓超、康有為、譚嗣同がいる。また学会参加者の出身地は、広東、陝西、浙江、江蘇が多い。

学会は年代的には、戊戌変法実施以前にピークとなり、地理的には、湖南、北京、江蘇、広東にかたよりが見られた。

戊戌変法の実施は、政治、経済、文教、軍事の各方面に見られるが、それらの改革は、学会の意図したものと深い関連があった。また変法運動推進者も学会運動推進者も、同じ中下級の官僚層であり、重なる者が多かった。

そして、学会運動の限界が変法運動の限界となった。

以上、第一節では、学会について考察したが、学会の意義は、西欧の学問を取り入れて中国の近代化変法思想の鼓吹に役立てようとしたことが知られる。

第二節では、報館の設立について考察した。報館の先駆としては、『京報』と『万国公報』が考えられる。報館の機能と性格については、その章程により目的が知られる。それによれば、時事的啓蒙的・西学的中学的なもの、時事的なもの、時事的西学的なもの、時事的中学的西学的なもの、西学的なもの、中学的西学的なもの、啓蒙的なものの７つがある。

参加者について見て行けば、出身地域は、湖南、江蘇、浙江、広東にかたよりがあり、生員、挙人、知県など、未入流或いは、下級官僚にかたよりが見られた。報館の年代的分布については、変法実施前の光緒23年（1897年）、光緒24年（1898年）がピークであった。報館の地理的分布としては、江蘇省にかたよりが見られた。変法運動における報館の意義は、変法思想の鼓吹と普及にあった。

第三節では、変法期の学堂の設立について考察した。学堂の先駆となるものは、書院と清末の洋式学校であった。その機能と性格では、各学堂は、その性格から、西学的学堂、西学中学的学堂、中学西学的学堂、実学的学堂に分けられる。学堂参加者の派別は、各派の人々が含まれ、出身地は、湖南、広東、江蘇にかたよりがあり、未入流の下級官僚、学生にかたよりがあった。意義としては、人材の育成にあったといえよう。